

|| 企業調査レポート ||

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

企業情報はこちら >>>

2017 年 3 月 29 日 (水)

執筆：客員アナリスト

内山崇行

FISCO Ltd. Analyst **Takayuki Uchiyama**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 事業概要	01
2. 2015 年から 2020 年までの 3 ヶ年 ×2 の中期経営計画	01
3. 2016 年 12 月期決算及び 2017 年 12 月期見込み	02
■ 会社概要	03
1. 会社概要	03
2. 沿革	04
3. グループ概要	05
■ 事業概要	06
1. CAE ソリューションサービス事業	06
2. IT ソリューションサービス事業	06
3. 強み	07
■ 業績動向	09
1. 2016 年 12 月期業績概要	09
2. 財務状況と経営指標	13
■ 今後の見通し	14
● 2017 年 12 月期業績見通し	14
■ 中長期の成長戦略	15
1. 3 ヶ年 ×2 の事業計画	15
2. リスク及び対処	16
■ 株主還元策	17

■ 要約

CAE ソリューションの独自性を強化し 6 年間で売上倍増を狙う

サイバネットシステム<4312>は、自動車、電気機器など製造業の設計・研究開発などに利用される CAE（コンピュータによる工学支援）ソフトウェアの開発、販売、コンサルティング、技術支援などのサービスを提供するソリューションプロバイダーである。大手独立系 IT ソリューションベンダーの富士ソフト<9749>グループの一員であり、30 年以上 CAE のリーディングカンパニーとして活躍してきた。CAE ソフトウェアの開発・販売及び技術支援などのサービスを提供する CAE ソリューションサービス事業と、セキュリティサービス、IT 資産管理、及びイノベーション支援、医療可視化などのソリューションサービスを提供する IT ソリューションサービス事業を軸に手掛けている。

1. 事業概要

CAE ソリューションサービス事業では CAD システムと連動して解析・シミュレーションを行う構造解析、音響解析、樹脂流動解析、光学設計・解析・評価、公差解析マネジメントなどの様々な分野の CAE ソリューションを始め、電子回路や基板の設計、モデルベース開発、最適設計支援などの幅広いソリューションを提供している。この他にも、導入支援、コンサルティング、受託開発などの技術サービス、ユーザー教育・支援（セミナー、ユーザーカンファレンス、事例発表会の開催等）などを行っている。

IT ソリューションサービス事業ではセキュリティ管理、IT 資産管理、エンドポイント・セキュリティ※製品等の製品の取扱いや、また、データバックアップ、アプリケーション性能管理、データベース開発・運用、メールサーバーなど、企業の IT インフラを支える様々なソリューションも提供する。加えて、CAE ソリューションサービス事業と同様、ユーザーの環境に応じた運用コンサルティング、導入支援、ユーザー教育支援などのサービスの提供も手掛けている。

| ※ エンドポイント・セキュリティ：サーバー、パソコン、スマートフォンなど端末向けのセキュリティ。 |

2. 2015 年から 2020 年までの 3 年× 2 の中期経営計画

同社は 2015 年 2 月に、2015 年から 2020 年までの 3 年× 2 の中期経営計画を公表している。基本戦略は、1) 同社独自の価値の提供、2) 自動車関連分野への注力、3) パートナーとの連携強化、の 3 点である。CAE、IT、可視化、ビッグデータなどを用いた、高付加価値、高品質のサービスを提供することで、中長期の経営目標として、前期（2015 年～ 2017 年）は連結営業利益率 8% 超を、後期（2018 年～ 2020 年）は連結売上高 30,000 百万円超、連結営業利益 3,000 百万円（連結営業利益率 10% 超）の達成を目指している。

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

<http://www.cybernet.jp/ir/>

要約

3. 2016 年 12 月期決算及び 2017 年 12 月期見込み

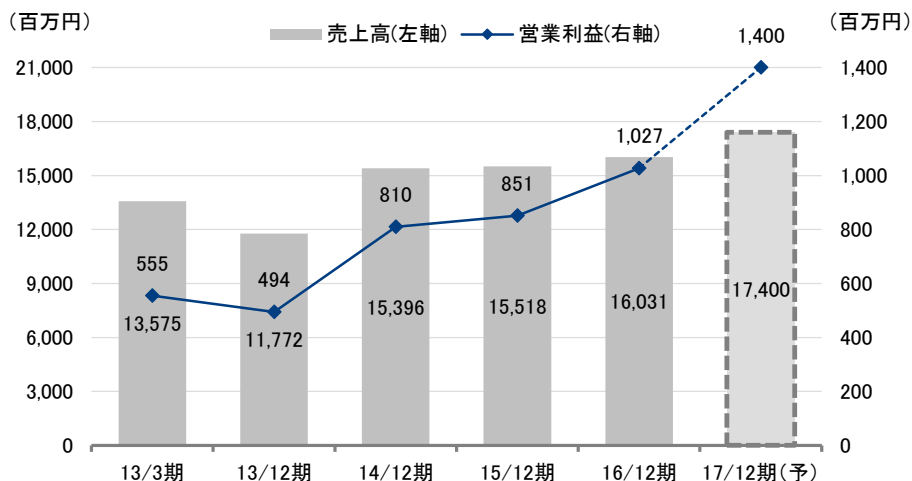
2016 年 12 月期の売上高は、国内でのマルチフィジックス解析ツールや海外での北米開発子会社が好調だったことで、16,031 百万円（前期比 3.3% 増、計画比 4.6% 減）であった。営業利益は 1,027 百万円（前期比 20.6% 増、計画比 8.2% 増）といずれも上回った。経常利益は 1,001 百万円（前期比 0.1% 減、計画比 4.4% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益は 462 百万円（前期比 0.3% 減、計画比 0.2% 増）とほぼ前期並みであった。なお、中期経営計画の前半の最終年である 2017 年 12 月期は、設計開発工程の効率化ニーズへの対応、設計開発への検証、計測や、IoT※といったビッグデータ関連のビジネスにも対応し、当初計画通り、売上高 17,400 百万円（前期比 8.5% 増）、営業利益 1,400 百万円（前期比 36.2% 増）、経常利益 1,500 百万円（前期比 49.7% 増）を狙う。

※ IoT (Internet of Things) : 様々な「もの」がインターネットに接続され、相互に通信し合う仕組みのこと。

Key Points

- ・ CAE のリーディングカンパニーとして 30 年以上にわたり日本のものづくりを支援
- ・ 2016 年 12 月期は為替変動により経常利益は横ばいも、収益力向上で営業利益は 20.6% 増
- ・ 中期経営計画前半の最終年である 2017 年 12 月期は営業利益率 8% 超を目指す

業績推移



注：13/12 期は決算期変更に伴う変則決算
出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 会社概要

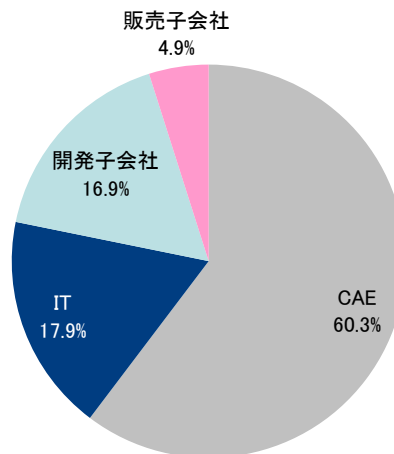
CAE のリーディングカンパニーとして 30 年以上にわたり 日本のものづくりを支援

1. 会社概要

同社は、CAE のリーディングカンパニーとして 30 年以上にわたって、製造業の研究開発部門や設計開発部門、あるいは大学や政府の研究機関に幅広い分野の CAE ソリューションを提供してきた。世界の著名で最先端な製品の代理店として最適なソリューションを選択し、テクニカルサポートや立ち上げ支援をはじめとする付加価値を加えてプロデュースしてきた。さらに IT 分野でも資産管理、セキュリティ管理などユニークなソリューション、及びコンサルティングによるトータルサポートで実績を積み上げてきた。

2016 年 12 月期の事業別売上構成を見ると、CAE ソリューションサービス事業が 60.3%、IT ソリューションサービス事業が 17.9%、開発子会社が 16.9%、販売子会社が 4.9% となっている。

事業別売上構成(2016年12月期)



出所：決算補足説明資料よりフィスコ作成

サイバネットシステム | 2017 年 3 月 29 日 (水)

4312 東証 1 部

<http://www.cybernet.jp/ir/>

会社概要

2. 沿革

同社は米国 Control Data Corp. の日本法人である日本シーディーシー株式会社が、1985 年 4 月にリモート・コンピューティング・サービスを目的としてサイバーネットサービス事業を分離、独立させることにより設立された。1989 年 4 月に神戸製鋼所<5406>が全発行済株式を取得し子会社化した。神戸製鋼所が事業を再構築した 1999 年 10 月に富士ソフト ABC(株)(現富士ソフト)へ売却され、100% 子会社となった。その後も主力商品の「MATLAB」(マットラブ)、「ANSYS」(アンシス)など CAE ソフトウェアの普及につれ、業績が順調に拡大してきている。2001 年 10 月に JASDAQ 市場に株式を公開し、2003 年 8 月に東京証券取引所市場第 2 部へ上場し、2004 年 9 月には同市場第 1 部へ指定替えされた。

東証 1 部上場後は、国内においては 2005 年 4 月に(株)ケイ・ジー・ティー(高度な可視化技術とネットワーク関連のソフトウェアを保有)、同年 8 月に(株)プラメディア(プラスチック CAE 事業を専門とする)を相次いで子会社化し、CAE 事業の補完・増強を図っている。さらに、2006 年 5 月に(株)京浜アートワーク及び(株)EDA コネクトの営業の全部を譲り受け、エレクトロニクス分野の事業領域を拡大した。一方で日系、外資製造業の中国進出が進むなか、CAE に関する技術力を活かし、中国においても日本と同レベルの技術サービスが提供できる環境を用意するため、2004 年 12 月に西希安工程模倣軟件(上海)有限公司を設立(2013 年 12 月期に莎益博設計系統商貿(上海)有限公司に経営統合)し、CAE に関するコンサルティング、受託解析、教育等の技術サービスの提供を開始した。また、2006 年 8 月に、EDA ビジネス拡大戦略の一環として EDA に特化した莎益博設計系統商貿(上海)有限公司(現:莎益博工程系統開発(上海)有限公司)を設立した。2008 年 7 月には台湾での事業立ち上げを目的として台湾の鈦思科技と合併で光学系、電気・電子系を中心に制御系、数式処理系等の CAE ソリューションサービスを展開する思渤科技股份有限公司を設立した。さらに、2012 年 3 月に Cybernet Systems Korea Co.,LTD. を設立し(2015 年 6 月にビジネス戦略見直しのため清算)、アジア地域の拠点設置、拡充に注力する。

2009 年 7 月に「MATLAB」の販売代理店業務が開発ベンダーの日本法人へ移管されると、以降は自社製品のウエイトを高める戦略に転換した。2009 年 7 月に米国 Sigmetrix,L.L.C.(以下、Sigmetrix:公差※¹解析ソフトの開発、販売、コンサルティングを行う)を子会社化したのに続き、2009 年 9 月にはカナダ WATERLOO MAPLE INC.(以下 Maplesoft:対話的な数式処理ソフト(STEM※²コンピューティング・プラットフォーム)である「Maple」やシステムレベルモデリング・シミュレーションツールの「MapleSim」などを開発、販売する)を、さらに 2010 年 7 月にはベルギー Noesis Solutions NV(以下、Noesis:PIDO ツール※³の開発、コンサルティングを行う)を 100% 子会社化した。

※¹ 公差:設計時に設定した寸法が持つことのできるばらつき許容範囲

※² STEM:科学、技術、工学、数学(Science, Technology, Engineering and Mathematics)という総合的な分野の総称

※³ PIDO:(ピド:Process Integration & Design Optimization)CAD/CAE を活用した製品開発プロセスを自動化・統合化・最適化することで、品質向上、開発期間の短縮、開発コストの削減に貢献する全体最適化ソリューションツール

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

http://www.cybernet.jp/ir/

会社概要

沿革

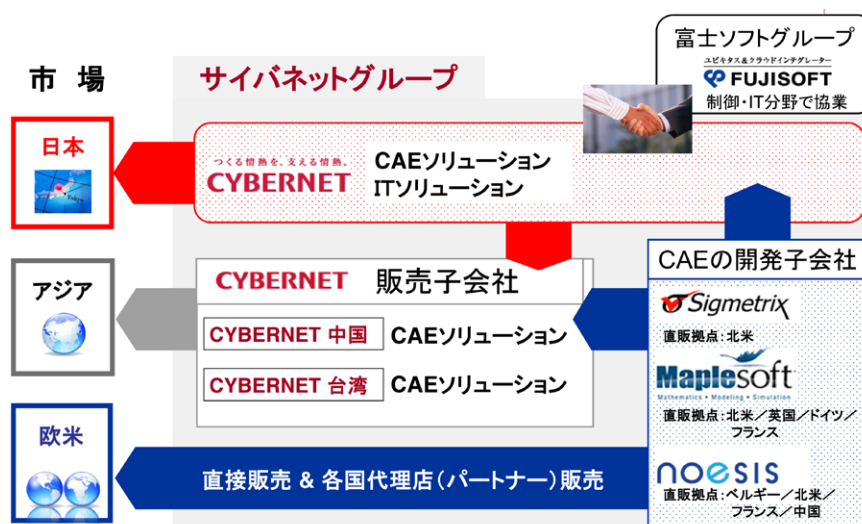
年月	概要
1985年 4月	米国 CDC の日本法人日本シーディーシー株式会社が、サイバーネットサービス事業を分離独立させ、サイバネットシステム株式会社を設立。
1989年 4月	(株) 神戸製鋼所が、同社発行済全株式を取得。
1999年10月	富士ソフト ABC (株) (現: 富士ソフト (株)) が、同社発行済全株式を取得。富士ソフト ABC の 100% 子会社となる。
2001年10月	JASDAQ 市場に株式を公開。資本金を 9 億 95 百万円に増資。
2003年 8月	東証第 2 部に上場。
2004年 9月	東証第 1 部に上場。
2004年12月	西希安工程模擬軟件 (上海) 有限公司を中華人民共和国 上海市に設立。
2005年 4月	(株) ケイ・ジー・ティーの発行済全株式を取得し、子会社化する。
2005年 8月	(株) プラメディアの発行済株式の 95% を取得し、子会社化する。
2006年 5月	(株) 京浜アートワーク及び (株) EDA コネクトの営業の全部を譲り受ける。
2006年 8月	莎益博設計系統商貿 (上海) 有限公司 (現: 莎益博工程系統開發 (上海) 有限公司) を中華人民共和国 上海市に設立。
2008年 7月	思渤科技股份有限公司を台湾新竹市に設立。
2009年 7月	米国 Sigmetrix を 100% 子会社とする。
2009年 8月	(株) プラメディアを吸収合併。
2009年 9月	カナダ Maplesoft を 100% 子会社とする。
2010年 5月	(株) ケイ・ジー・ティーを吸収合併。
2010年 7月	ベルギー Noesis Solution NV を 100% 子会社とする。
2012年 3月	Cybernet Systems Korea Co., LTD. (株) を大韓民国ソウル特別市に設立 (2015 年に清算)。

出所: ホームページよりフィスコ作成

3. グループ概要

同社グループは、同社及び親会社の富士ソフトと、海外ソフトウェア開発子会社 3 社 (米 Sigmetrix、カナダ Maplesoft、ベルギー Noesis) と海外販売子会社 2 社 (中国・莎益博工程系統開發 (上海)、台湾・思渤科技股份有限公司) を含む連結子会社 12 社で構成されている。

グループ概要



出所: 会社事業説明資料より掲載

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

事業概要

CAE と IT ソリューションサービス事業を軸に独自の強みを発揮

1. CAE ソリューションサービス事業

CAE ソリューションサービス事業は、主に海外の CAE ソフトウェアの販売代理店を行っている。加えて CAE ソフトウェアの開発・販売及び技術支援などのサービス、導入時のインストール、セットアップ、カスタマイズや導入及び運用時のコンサルティング、ユーザーの受託開発を実施している。事業内容を応用分野別に、MCAE (Mechanical CAE) 分野、光学設計分野、EDA (Electronic Design Automation) 分野、MBD (Model Based Development) 分野、テスト・計測分野とその他の分野の 6 つに分類している。

CAE ソリューションサービス事業

事業分野	詳細
MCAE (Mechanical CAE)	Mechanical とは機械の、若しくは物理的な力の、と言う意味である。物の形がある程度決まり、CAD でのデザインが終わった後に、構造、伝熱、電磁場、熱流体等の解析をサポートするソフトウェア及びサービスを提供する。主力商品は、米 ANSYS Inc. 製品のマルチフィジックス (複数の物理的な力) の解析ツール「ANSYS」。
光学設計	光の進み方をシミュレーションするソフトウェア。光学解析、照明解析、及び有機 EL や光学部材特性等の測定ツールやソリューション、サービスを提供する。主力商品は、米 Synopsys 社製品「CODE V」(光学設計評価プログラム)、「LightTools」(照明設計解析ソフトウェア) など。
EDA (Electronic Design Automation)	電子機器や半導体の設計を自動化するソフトウェア。LSI 設計 / 回路設計から基板設計・解析・製造 / 実装までの運用提案・設計解析サービスを提供する。主力商品は、米 Mentor Graphics 社製品の「Xpedition Enterprise」「HyperLynx」など。
MBD (Model Based Development)	製品開発において具体的な形や寸法を決める前に、機能で考え、事前評価し、最適な特性値を見出すことにより、早期に問題点をつぶし手戻りの少ない基本設計を行うためのソフトウェア。主力製品は、同社グループの Maplesoft 製の STEM コンピューティング・プラットフォーム「Maple」や、システムレベルモデリング・シミュレーションツール「MapleSim」など。
テスト・計測及びその他	テスト・計測分野では、同社が開発した FPD (Flat Panel Display) 自動検査システムなどの提供。その他の分野では、同社グループ製品である 3 次元公差マネジメントツール (評価対象の組立部品寸法、部位バラツキ評価を基にしたコストと品質の最適化)、最適設計支援ツール (解析の自動化、ロバスト※性・信頼性評価、品質工学適用等) に加えて、CAE 技術教育サービスなどを提供している。

※ロバスト：応力・環境変化などの影響で変化することを阻止する内的な仕組み
出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

2. IT ソリューションサービス事業

IT ソリューションサービス事業は米国の大手セキュリティソフトウェア開発ベンダー、Symantec Corporation のセキュリティ関連ソフトウェア、エンドポイント・セキュリティ、IT 資産管理ソリューション等の代理店事業と、関連するサービスを提供している。分野別には IT ソリューション分野とデータソリューション分野の 2 分野に分かれている。

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

http://www.cybernet.jp/ir/

事業概要

IT ソリューションサービス事業

事業分野	詳細
IT ソリューション	米国の大手セキュリティソフトウェア開発ベンダー、Symantec Corporation のセキュリティ関連ソリューションを中心とするサーバーやクライアント PC 等のウイルス感染・情報流出等を防ぐエンドポイント・セキュリティや IT 資産管理ソリューション等を提供する。 また、データバックアップ、アプリケーション性能管理、データベース開発・運用、メールサーバー、端末エミュレータ（仮想端末）など、企業の IT インフラを支えるソリューションを提供する。さらにユーザーの環境に応じた運用コンサルティング、導入支援、ユーザー教育支援などのサービスも提供する。
データソリューション	情報検索によるイノベーション支援、ビッグデータのマップ化、特許情報調査を基にしたアイデア創出支援等のソリューションを提供する。イノベーション支援としては「Goldfire」など米 IHS Inc. 製品を扱うほか、ビッグデータ可視化エンジン（データを見える化するミドルウェア）提供や、技術戦略立案支援サービス「R&D Navi」をクラウドで提供する。さらに、解析数値データ、医療データなどの見える化や、その他 AR/VR ※等のソリューションも提供している。

※ AR：(Augmented Reality) 拡張現実、VR：(Virtual Reality) 仮想現実

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

3. 強み

同社の強みは長年のものづくり支援で培った、他社が容易に模倣できない同社ならではのビジネスモデルと、安定した収益構造である。

(1) ビジネスモデル

同社の強みの 1 つが、長年の CAE ソリューション提供の中で培ったビジネスモデルであり、これにより一般的な代理店ビジネスとは一線を画すことができている。具体的には以下 4 点が挙げられる。

- 世界的に実績のあるソフトウェア開発ベンダー 10 社以上、50 種類以上の多彩なソフトウェアを提供する体制を整えていること
- CAE 専門会社として 30 年以上の事業経験があり、ノウハウ、技術力を蓄積していること
- 約 2,000 の各種企業、500 の教育機関・国立研究機関が顧客であり、特定の業種、顧客に依存していないこと
- ユーザーニーズを集約し、ものづくり大国である日本のニーズとして開発ベンダーへフィードバックすることで、ベンダー企業との強固な信頼関係が構築できていること

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

http://www.cybernet.jp/ir/

事業概要

ビジネスモデル



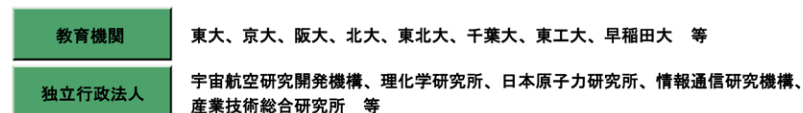
出所：会社事業説明資料より掲載

業種別主要顧客

業種別主要顧客



教育・研究機関

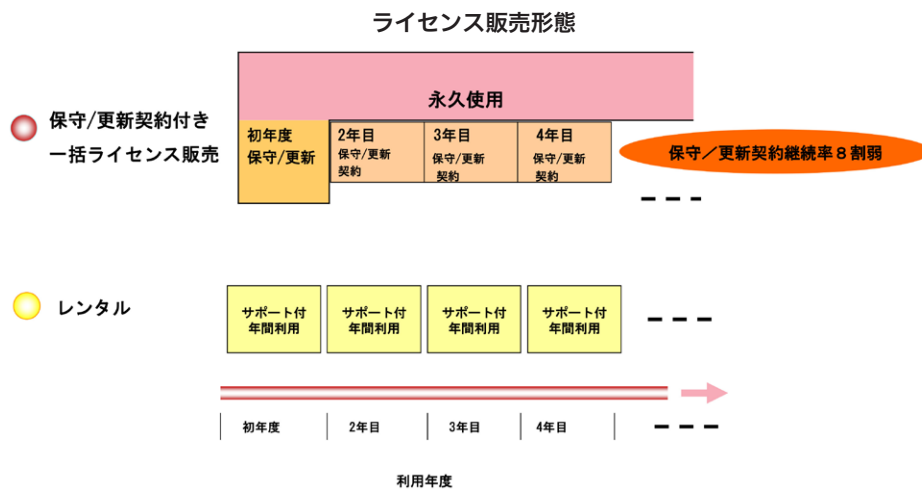


出所：会社事業説明資料より掲載

事業概要

(2) 安定した収益構造

同社のライセンス販売形態は保守 / 更新契約付き一括ライセンス販売か、サポート付きの毎年レンタル契約かの 2 種類であり、現在はほとんどが保守 / 更新契約付き一括ライセンス販売である。保守 / 更新契約の継続率が 8 割弱と非常に高く、毎年安定的にライセンス収入が得られている。継続率が高い理由としては、製品力が高いこと、毎年のように機能が追加されることや、メールやユーザーサイトでの問い合わせ対応が充実しているなど、顧客満足度の高いサービスを提供できているためと同社ではみている。



出所：会社事業説明資料より掲載

業績動向

2016 年 12 月期は為替変動により経常利益は横ばいも、収益力向上で営業利益は 20.6% 増

1. 2016 年 12 月期業績概要

国内売上高は IT ソリューション分野及びモデルベース開発エンジニアリングサービスが好調に推移し、主力のマルチフィジックス解析ツールも堅調に推移したことで前期を上回った。海外売上高はカナダの開発子会社及び米国の開発子会社並びに台湾の販売子会社は好調に推移した。その結果、円高による為替換算の影響があったものの、連結売上高は前期比では増収となった。利益面では、計画的増員により人件費が増加したが、売上高が増加したことで営業利益は前期比で増益となった。しかし、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、円高による為替差損の影響もあり、ほぼ前年並みであった。

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

http://www.cybernet.jp/ir/

業績動向

結果として、売上高は 16,031 百万円（前期比 3.3% 増、計画比 4.6% 減）であった。営業利益は 1,027 百万円（前期比 20.6% 増、計画比 8.2% 増）といずれも上回った。経常利益は 1,001 百万円（前期比 0.1% 減、計画比 4.4% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益は 462 百万円（前期比 0.3% 減、計画比 0.2% 増）とほぼ前期並みであった。

全社業績（2016 年 12 月期）

（単位：百万円）

	15/12 期		16/12 期		前期比
	実績	対売上比	実績	対売上比	
売上高	15,518	100.0%	16,031	100.0%	3.3%
売上原価	8,642	55.7%	8,926	5.7%	3.3%
販管費	6,024	38.8%	6,077	37.9%	0.9%
営業利益	851	5.5%	1,027	6.4%	20.6%
経常利益	1,003	6.5%	1,001	6.2%	-0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	463	3.0%	462	2.9%	-0.3%

出所：決算短信よりフィスコ作成

(1) セグメント別

CAE ソリューションサービス事業では、テスト・計測分野、開発子会社、販売子会社が低調に推移したが、MCAE 分野、MBD 分野が好調だったことで、全体では売上高 13,166 百万円（前期比 2.2% 増）、営業利益 2,252 百万円（前期比 15.0% 増）と増収増益であった。

IT ソリューションサービス事業については、IT ソリューション分野ではセキュリティ関連ソリューション、ディスク暗号化ソフトウェアなどが新規販売、保守契約ともに好調だったこと、データソリューション分野ではイノベーション支援ソリューションのライセンス販売、保守契約や医療可視化分野、AR/VR 分野とも好調だったことから、全体では売上高 3,004 百万円（前期比 10.9% 増）、営業利益 361 百万円（前期比 34.3% 増）と増収増益であった。

セグメント別損益（2016 年 12 月期）

（単位：百万円）

	15/12 期	16/12 期	
	実績	実績	前期比
売上高	15,518	16,031	3.3%
CAE ソリューションサービス事業	12,878	13,166	2.2%
IT ソリューションサービス事業	2,708	3,004	10.9%
調整額	-69	-138	-
セグメント利益（営業利益）	851	1,027	20.6%
CAE ソリューションサービス事業	1,959	2,252	15.0%
IT ソリューションサービス事業	268	361	34.3%
調整額	-1,376	-1,586	-

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

注：CAE ソリューションサービス事業には開発子会社、販売子会社を含む

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

http://www.cybernet.jp/ir/

業績動向

なお、応用分野別の詳細は以下のとおりである。

CAE ソリューションサービス事業 (2016 年 12 月期状況)

事業分野	詳細
MCAE (Mechanical CAE)	主力のマルチフィジックス解析ツールの新規ライセンス販売は、大口顧客向け包括契約や大手製造業からの受注があったが、電気機器業界及び自動車関連業界からの受注が落ち込み軟調に推移。保守契約更新は機械・精密機器業界からの受注増加により好調に推移。エンジニアリングサービスは自動車関連業界からの受注が増加により好調に推移。売上高は 5,653 百万円（前期比 3.5% 増）となった。
光学設計	主力商品である照明設計解析ソフトウェアの新規ライセンス販売は、電気機器業界からの受注が落ち込み軟調に推移。保守契約更新は、機械・精密機器業界を中心に堅調に推移。光学設計評価プログラムの新規ライセンス販売は、機械・精密機器業界からの受注で好調、保守契約更新も堅調に推移。自動車用照明設計プラットフォームは新規ライセンス販売・保守契約更新ともに好調に推移。売上高は 2,602 百万円（前期比 2.8% 増）となった。
EDA (Electronic Design Automation)	電子回路基板設計ソリューションは、取扱商品の変更に伴う立ち上げが徐々に進み、新規ライセンス販売及び保守契約更新ともに、当初期待した計画には至らないものの前年同期を上回る。プリント基板エンジニアリングサービスは自動車関連業界からの受注が好調に推移。売上高は 399 百万円（前期比 2.0% 増）となった。
MBD (Model Based Development)	同社グループ製品でもある 1D CAE ※ツールの新規ライセンス販売は、電気機器業界からの受注により好調に推移し、保守契約の更新も好調に推移。モデルベース開発エンジニアリングサービスは、自動車関連業界からの自動運転技術やシミュレーション環境構築などに関する受託開発・コンサルティング及び電気機器業界からの受注で好調に推移。売上高は 872 百万円（前期比 18.8%）となった。
テスト・計測及びその他	テスト・計測分野では、同社が開発した FPD (Flat Panel Display) 自動検査システムは、電気機器業界からの大型受注があったが、前年の中国向け大型案件をカバーするに至らず。売上高は 62 百万円（前期比 55.7% 減）となった。 その他分野では、グループ会社製品の最適設計支援ツールの新規ライセンス販売は自動車関連業界からの受注が増加したが、電気機器業界からの受注が落ち込み横ばいも、保守契約更新は好調に推移。3 次元公差マネジメントツールの新規ライセンス販売及び保守契約の更新は、電気機器業界及び自動車関連業界等からの受注により好調に推移。売上高は 344 百万円（前期比 0.16% 減）となった。

※ 1D CAE：対象とする製品やシステムなどの機能を数学モデル（数式）で表現し、評価解析する手法

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

開発子会社 (2016 年 12 月期状況)

子会社	詳細
WATERLOO MAPLE INC. (カナダ)	北米において大型の OEM 案件を受注したこともあり、好調に推移。売上高前期比は現地通貨ベース 16.8% 増、円ベース横ばい。
Noesis Solutions NV (ベルギー)	最適設計支援ツールの販売が、北米においては堅調に推移したが、欧州では低調に推移。売上高前期比は現地通貨ベース 3.0% 増、円ベース 7.9% 減。
Sigmetrix, L.L.C. (米国)	3 次元公差マネジメントツールの販売が、主力の北米においては堅調に推移したが、欧州では低調に推移。売上高前期比は現地通貨ベース 15.4% 増、円ベース 4.4% 増。

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

http://www.cybernet.jp/ir/

業績動向

販売子会社（2016 年 12 月期状況）

子会社	詳細
CYBERNET SYSTEMS (SHANGHAI) CO.,LTD.	主力の光学系ソフトウェアの販売が好調に推移。グループ会社製品の STEM コンピューティング・プラットフォームの販売は堅調に推移も、最適設計支援ツールの販売は、前年の政府系含む大型案件の反動により低調に推移。売上高前期比は現地通貨ベース 2.2% 減、円ベース 16.1% 減。
CYBERNET SYSTEMS TAIWAN CO.,LTD.	主力の光学系ソフトウェア及び他製品の販売が好調に推移。グループ会社製品の STEM コンピューティング・プラットフォーム及び 3 次元公差マネジメントツールの販売は低調に推移も、最適設計支援ツールの販売が好調に推移。売上高前期比は現地通貨ベース 35.9% 増、円ベース 20.1% 増。

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

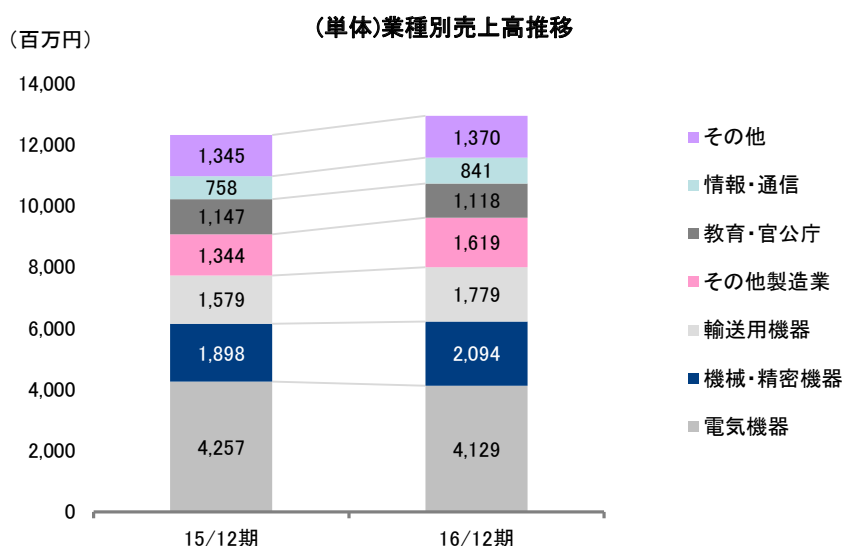
IT ソリューションサービス事業（2016 年 12 月期状況）

事業分野	詳細
IT ソリューション	主力商品である大手開発ベンダのセキュリティ関連ソリューションは新規ライセンス販売、保守契約更新とも堅調に推移。ディスク暗号化ソフトウェアは新規ライセンス販売、保守契約更新とも堅調に推移。また、クラウドサービス、クラウド型シングルサインオン・アクセスコントロールも好調に推移。売上高は 2,043 百万円（前期比 12.3% 増）となった。
データソリューション	イノベーション支援ソリューションの新規ライセンス販売、保守契約更新は好調に推移。医療可視化分野は好調に推移。AR/VR 分野は開発請負サービスが好調。産業用 AR サービスや VR を使った設計レビューシステムの引き合いが増加。売上高は 975 百万円（前期比 8.3% 増）となった。

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

(2) 業種別

単独での売上高を業種別に見ると、電気機器からの受注が落ち込んだが、機械・精密機器、輸送用機器、その他製造業からの受注が好調に推移した。



出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

サイバネットシステム

4312 東証 1 部

2017 年 3 月 29 日 (水)

<http://www.cybernet.jp/ir/>

業績動向

2. 財務状況と経営指標

2016 年 12 月期の財務状態は、総資産残高が 19,522 百万円（前期末比 636 百万円増）となった。資産の部では、流動資産が有価証券、受取手形及び売掛金が増加したことで、15,680 百万円（前期末比 822 百万円増）となった。一方で固定資産は、ソフトウェアが増加したが、のれんの減少が大きく、3,842 百万円（前期末比 186 百万円減）となった。

負債の部では未払法人税等が増加したことの影響が大きく、負債合計が 5,980 百万円（前期比 654 百万円増）となった。

純資産の部では、利益剰余金が増加したが、為替換算調整勘定が減少したことで、純資産合計が 13,541 百万円（前期比 18 百万円減）となった。

経営指標を見ると、安全性を示す自己資本比率は、前期末の 71.5% から 69.0% へと 2.5 ポイント低下したが、引き続き高水準を維持している。また、収益性を表す売上高営業利益率は、売上高増加による商品利益増加の影響が大きく、0.9 ポイント上昇した。

連結貸借対照表及び主要な経営指標

(単位：百万円)

	15/12 期末	16/12 期末	増減額
流動資産	14,857	15,680	822
(現預金)	2,755	2,777	21
固定資産	4,028	3,842	-186
総資産	18,885	19,522	636
流動負債	4,175	4,701	526
固定負債	1,150	1,278	128
(有利子負債)	-	-	-
負債合計	5,325	5,980	654
純資産合計	13,560	13,541	-18
(安全性)			
流動比率	355.8%	333.5%	-22.3pt
自己資本比率	71.5%	69.0%	-2.5pt
(収益性)			
ROA (総資産経常利益率)	5.2%	5.2%	0.0pt
ROE (自己資本当期純利益率)	3.4%	3.4%	0.0pt
売上高営業利益率	5.5%	6.4%	0.9pt

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

中期経営計画前半の最終年である 2017 年 12 月期は 営業利益率 8% 超を目指す

● 2017 年 12 月期業績見通し

2017 年 12 月期の連結業績は、売上高は 17,400 百万円（前期比 8.5% 増）、営業利益 1,400 百万円（前期比 36.2% 増）、経常利益 1,500 百万円（前期比 49.7% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益で 900 百万円（前期比 94.8% 増）と増収増益を見込んでいる。

ものづくりの現場では、顧客ニーズの多様化に迅速に対応するため、設計開発の効率化ニーズが拡大している。その中で、設計開発工程で従来の 3D CAE（3 次元形状を元に解析を行う手法）技術と概念設計の 1D CAE 技術を融合し、トータルで設計開発工程の効率化を図る動きが出てきている。さらに、設計開発に対する検証・計測分野や、IoT といったビッグデータ分野でのビジネスが生まれてきている。同社はこのような動きに対応することで、業績を拡大する計画である。

なお、営業利益が前期に比べ 36.2% 増と大幅に上回っているが、これには 2016 年 12 月期は臨時賞与支給、西日本支社の移転、本社の改装などで一時的に費用が約 50 百万円発生したこと、Sigmetrix 買収に伴うのれんの償却が 2016 年 12 月期で終了し、2017 年 12 月期以降は約 50 百万円の利益増加が見込まれること等の増益要因も加味されるため、達成可能と同社では考えている。

2017 年 12 月期業績見通し

（単位：百万円）

	16/12 期	17/12 期	
	実績	予想	前期比
売上高	16,031	17,400	8.5%
営業利益	1,027	1,400	36.2%
営業利益率	6.4%	8.0%	—
経常利益	1,001	1,500	49.7%
経常利益率	6.2%	8.6%	—
親会社株主に帰属する当期純利益	462	900	94.8%
親会社株主に帰属する当期純利益率	2.9%	5.2%	—

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

■ 中長期の成長戦略

3 ヶ年 × 2 の事業計画で、2020 年 12 月期に売上高 300 億円、営業利益 30 億円を目指す

1. 3 ヶ年 × 2 回の事業計画

同社は 2015 年 2 月に、2015 年から 2020 年までの 3 ヶ年 × 2 の中期経営計画を公表している。基本戦略は、1) 同社独自の価値の提供、2) 自動車関連分野への注力、3) パートナーとの連携強化、の 3 点である。CAE、IT、可視化、ビッグデータなどを用いた、高付加価値、高品質のサービスを提供することで、中長期の経営目標として、前期（2015 年～ 2017 年）は連結営業利益率 8% 超を、後期（2018 年～ 2020 年）は連結売上高 30,000 百万円超、連結営業利益 3,000 百万円（連結営業利益率 10% 超）の達成を目指すというものである。

(1) 同社独自の価値の提供

従来の 3D CAE における MDS（マルチドメインソリューション：電気・熱など異なる分野をまたがって解析する手法）に加え、1D CAE 及びテストと計測を連携させた拡大 MDS を推進している。個々の開発者や設計者が単品の CAE で解決してきた構造、応力、熱、流体等の解析をすべて同時にシミュレーションして最適化することや、同社の CYBERNET CLOUD を利用した CAE クラウドと連携させ、ビッグデータ化しほかでも活用することなど、研究開発環境への付加価値の創造を目指す。これらの取り組みにより、2014 年 12 月期時点で 127 億円の MDS 関連の売上高を 2020 年 12 月期には 259 億円まで増加させる計画である。



出所：会社事業説明資料より掲載

(2) 自動車関連分野への注力

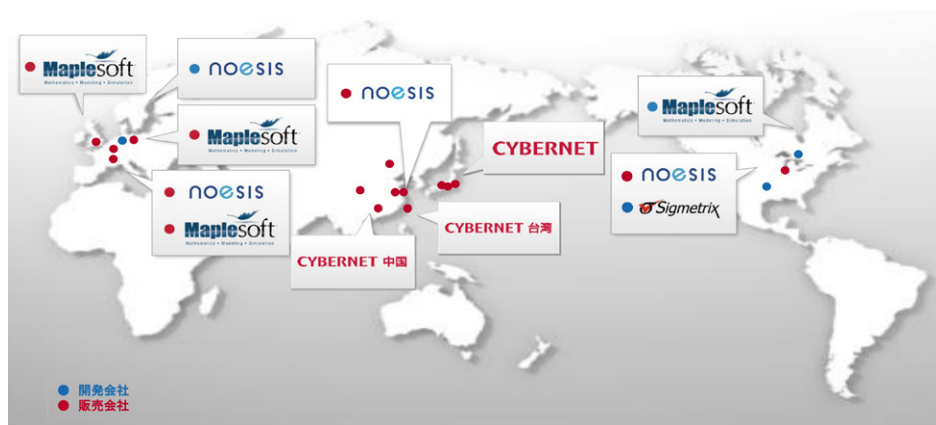
ADAS※や IoT との連携など、ますます高度化・高精度化する自動車関連分野に対して、同社独自技術を用いたコンサルティングを通じて、顧客にとっての最適なソリューションをグローバルに提供できることを目指す。さらには関連技術を持った企業の M&A も視野に入れている。これらの取組により、2014 年 12 月期時点で 15 億円の自動車関連の売上高を、2020 年 12 月期には 50 億円まで増加させる計画である。

※ ADAS (Advanced Driving Assistant System : 運転手の支援や運転技術の補完、運転代理までも行う先進運転支援システムのこと)

(3) パートナーとの連携強化

グローバル展開を加速するために、各地域でパートナー及びグループ間の連携を強化するとともに、開発子会社製品の OEM 提供を積極的に推進する。

グループグローバルネットワーク



出所：会社事業説明資料より掲載

2. リスク及び対処

同社のリスクは、代理店ビジネスが中心であり、ソフトウェア商品が売上高の 7 割を占めていることである。開発ベンダーとの販売代理店契約は、原則として非独占かつ短期間で更新されることになっている。開発元の変化、つまり、M&A や経営者の交代による販売戦略の変更により、開発元自身が販売を開始する場合や、他社と販売代理店契約を締結する場合などには、業績に大きな影響を与える可能性がある。同社としては、MDS の推進で顧客にとって必要不可欠な存在となること、グローバル化の推進によりソフトウェアベンダー側にメリットを提供することなどで、他の代理店とは一線を画し、ほかに替えのきかない存在となることでリスク回避を図る計画である。

株主還元策

配当性向 50% か純資産配当率 3.0% を配当ポリシーに

同社は株主還元策として配当を実施している。2015 年 12 月期より配当の基本方針を配当性向 50% か、純資産配当率 3.0% のいずれか高い方を参考指標とし、企業価値向上に向けての中長期的な投資額を勘案した上で、総合的に決定している。2016 年 12 月期は純資産配当率 3.0% を参考としたが、2017 年 12 月期は営業利益率 8% を達成し、配当性向 50% を参考とした配当を行う計画である。

2017 年 12 月期配当予想

	16/12 期 実績	17/12 期 計画
1 株当たり配当額 (円)	13.00	14.44
1 株当たり当期純利益 (円)	14.83	28.88
配当性向	87.7%	50.0%
(参考) 純資産配当率	3.0%	3.3%

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ